

オオヨシキリのさえずり個体数の季節変化

大山紀子

はじめに

オオヨシキリ *Acrocephalus orientalis* は、東南アジアから夏鳥として日本に渡来し、九州以北の湖沼や湿地、水田、河川などのヨシ原で繁殖するウグイス亜科の鳥類である。手賀沼でも4月下旬から9月上旬にかけて毎年多数が観察され、繁殖が確認されている。この鳥は、ヨシの先端に止まってさえずる習性があるため、その行動が容易に観察される。また、つがい形成に先立って雄のさえずりが盛んになることや（江崎 1987）、一夫多妻制が発達していることが知られており、他の繁殖行動とさえずり行動に関する研究もいくつかなされている。このためさえずり個体数の季節的な変動に興味をもたれる。そこで、手賀沼周辺で繁殖するオオヨシキリについて、さえずり個体数の季節変化を調査した。

調査地および調査方法

調査地は、千葉県我孫子市に位置する手賀沼の下沼北岸で行った（図1）。この地域は岸

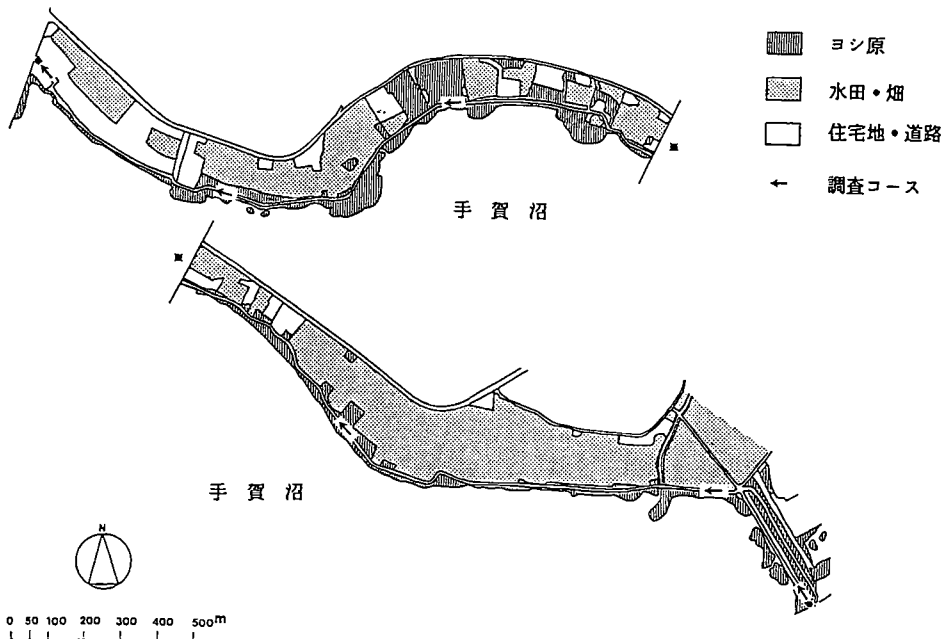


図1 調査地概要（我孫子市環境保全課、1991を参考に作成）

沿いにマコモやヨシ、ヒメガマを主とする群落が広がっており、これをぬって遊歩道が整備されている。ここからは両側に広がるヨシ原が容易に観察できる。遊歩道の200m程内陸にはほぼ平行して道路が走り、その間には水田が広がっている。

調査は、1991年5月15日から7月31日まで、週一回、合計12回行った。観察は、なわばり形成期にさえずりが比較的活発である午前中に限って行い、約1時間30分かけて遊歩道を歩き、オオヨシキリのさえずり個体数を数えた。観察は肉眼でも十分であったが、必要に応じて8倍の双眼鏡を使用した。

結 果

図2に、手賀沼下沼北岸におけるオオヨシキリのさえずり個体数および総個体数（さえずり個体数と姿のみ確認された個体数の合計）の変化を示す。

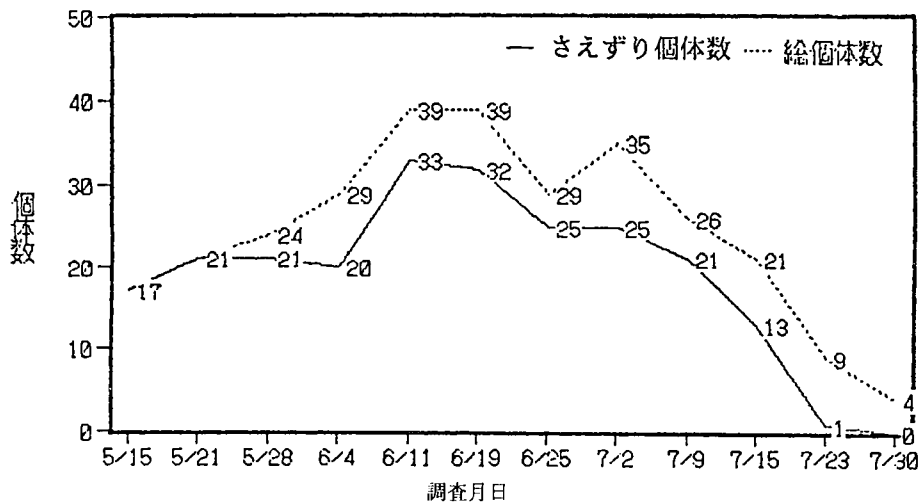


図2 手賀沼下沼北岸におけるオオヨシキリのさえずり個体数の季節変化

調査を始めた5月15日には、既に17羽がさえずっていたが、6月4日になるとさえずり個体数は急激に増加し、6月11日には最大となり、33羽を記録した。この数は、6月19日から減少しはじめ、7月9日を過ぎると急激に減少した。7月30日にはさえずっていた個体は一羽も確認されなかった。

また、調査期間を通して、合計91箇所のをさえずり場所（ソングポスト）が確認されたが、これらのほとんど（63%）がヨシとその他の草本との混合群落内であった。また、草地内の樹上でさえずっていた個体も数例観察された。

考 察

江崎（1987）、羽田他（1968）の報告によれば、オオヨシキリの雄はつがい形成されると直ちにさえずりをやめてしまい、第一雌の産卵・抱卵期に再びさえずりが活発になることが知られている。しかし、今回調べた手賀沼のさえずり個体数の変動のピークは一回で全体としてはこのような傾向は見られず、オオヨシキリのつがい形成の時期にはばらつきがあることが予想される。また、羽田他（1968）の長野県での観察ではさえずり個体数の

ピークは5月中旬になっており、手賀沼では、これより1カ月程遅れている。

また、91箇所のソングポストのうち、3回以上継続してさえずりが確認されたのは14箇所（15%）、2回以上継続してさえずりが確認されたのは39箇所（42%）で、長期間、同じ場所でさえずっている個体は少ないことが分かった。

引用文献

- 我孫子市環境保全課. 1991. 手賀沼周辺植生調査報告書. 我孫子市環境保全課, 千葉.
- 江崎保男. 1987. つがい形成にともなうオオヨシキリ雄のさえずり頻度と行動の変化. 日本鳥学会誌 36: 1-11.
- 羽田健三・寺西けさい. 1968. オオヨシキリの生活史に関する研究 I 繁殖生活. 日本生態学会誌 18 (3) : 100-109 .

Seasonal change of the number of singing males of Oriental Great Reed Warbler (*Acrocephalus orientalis*) at Lake Teganuma

Noriko Ohyama

Abiko City Museum of Birds, Kohnoyama 234-3, Abiko, Chiba, 270-11, Japan.